

報 告 書

2012年3月31日

新政会代表
望月 厚司 様

議員名 佐藤 成子

下記のとおり、会費負担を伴う政務調査についてご報告します。

1 支 出 先	(社) 静岡政経研究会
2 支出内容 及び金額	第28期静岡ニューメディア研究会会費 ¥10,000
3 開催日又は 支払日	平成23年4月～平成24年3月 平成23年4月18日支払
4 目 的	各界の著名人のタイムリーなテーマでの講演を静岡市内で聴講できるので、費用対効果も高いし、広い視野の情勢分析等の話を伺い、ヒントを得て、施策に繋げたいとの思いで参加する。又、伝統ある静岡ニュービジネス研究会が主催するので、人材ネットワークの広さによる、経営者の感覚、組織のリーダーの物事の捉え方などさまざまなリーダー像に触れて、リーダーの資質とは何か・いま何が必要か・比較検討できればの思いを目的に参加する。
5 内 容	(調査事項・調査結果を具体的に) この中部未来懇話会は、年2・3回のシンポジウムと時局講演会も合わせて開催している。特に主な物を記載する。 第1回シンポジウム『静岡県中部地域の新たな産業構造を探る』 日詰一幸・静岡大学教授 具体的な産業に焦点を当てると言うよりも、マクロ的に、中部地域の産業構造をみて、現在の社会環境の中、どんな強みがあるか再確認再点検が必要。そうすれば、どのような物に、ポテンシャルがあるかわかる。 原田裕司・静岡総合研究機構研究部長 地域から考える成長戦略・富士山型から八ヶ岳型へ等紹介。 西野勝明静岡県立大教授 生産構造・就業構造・移出移入の状況・海外との関係などの点検を。 これからは、付加価値の高いものに特化した方がいい。 中嶋壽志・専務理事 中部は商都の静岡市があり商業が盛んのイメージがあるが、商業もサ

ービス業も地域産業の域を脱していない。サービス産業の集積には、都市機能の充実が不可欠だ。

★中部地域の産業の傾向は、西部が製造業・東部が観光中心のサービス業に特化しているのに対して、全体的にバランスがとれている。

★産業の成熟化や成長産業の不足

★商業・サービス業の競争力の低下

※多様なニッチ産業の集約・コンテンツ産業等の構築が必要

時局講演会

『波乱含み 野田政権のスタート』

共同通信社論説委員長 吉田 文和氏

民主党の問題→世代の問題・野党マインドからの脱却・党の構成

自民党の問題→かつての自民党でない・党改革がまったく進んでいない

政治が抱えている課題→政治主導の確立・ねじれの解消・3年周期のダブル選挙の慣行化

政界再編は可能か→古株どうしではなく、若い層から声が上がらなければ変わる。が、時間がかかりそうだ。

内閣支持率の低下・民主・自民の代表、総裁選挙・政治の流動化から解散総選挙が起こり得る可能性がある。今後与野党協議のルールが作れるか。臨時国会を乗り切れるかがポイント。

第5回講座

『外から見つめなおそう、日本の底力』

東京大学大学院教授 ロバート・キャンベル氏

3回ほど東日本の被災地に足を運んだ。その前に、アメリカやイギリスに仕事で出かけていた。外国から日本を見たら、震災にしても、日本人の個が見えないと言われたとの事。で、決してそうではないと、自身の研究分野を通して説明したと言います。このところ、アメリカでは日本の現状を見直し始めている。バブルがはじけた後からの日本の堅実な切り抜け方。日本を甘く見てはいけないとの風潮。さまざまな分野で、パートナーとしてあるいは競争相手として、もう一度考えようとしている。この後、自身の研究から、日本人はしっかりと、江戸の昔から個を持っていると説明。少し過去を振り返り、比較しながら、同時に外に目を向け、今日本がどのような状況か見る複眼的な視点こそ必要だ。

6 成果・市政への反映等

中部は商業都市。かなり様変わりしたものの、呉服町の人通りは、県内でもぴかいち。でも、もう少し、まちづくり、町並みを考えた展開をしてほしいものだ。人の集まるまちづくり。市長の大命題だが、伝統産業に今一度力を注ぐのか、新しい産業に取り組むのか、欲張って、両方バランス良くなるのか？ただ集まればいいというものではないはずだ。いまいちコンテンツ産業が理解できないでいる。どれ程育っているのか示してほしい。

これらの産業が新しい静岡の中心になるかもしれないというのだから、なおさら、もっと宣伝していくべきだ。サービス業は、かなり、今後ホスピタリティーの認識が必要だと思う。地域産業から脱していないの指摘はまさにその等りだと共感できる。なんとかしなければだ。野田政権の今後は興味深く伺えた。問題の指摘と同時に、我々に何が出来るのかをもう少し語ってほしかった。政権交代後市政もかなり変わってきていると思う。地方分権時代なのだから、国や県を向かないで、独自の政策展開があっても良いのではないかと思う。

いつもテレビで見ているロバートさんの話。日本人より日本人気質があるみたいなお感じ。外から見る目と、内から見る目で、物事を複眼で見れる習慣が必要だと実感。私はそれに、後ろと前の目を付け加えたい。後ろは過去との比較、前は予見出来る目のことだ。個性を持つ大切さも、やはりこれからの公務員にも必要だと思う。

(注)

- 1 この別紙は、参加した会ごとに作成すること。
- 2 連名により作成することも可能。
- 3 この様式により難しい場合は、別の様式によることができる。